

## 4 調査結果の概要

### 第1 調査対象等

#### 1 調査対象

- ・ 65歳以上の者1人のみの世帯（以下「一人暮らし世帯」という。）の男女
- ・ 夫婦とも65歳以上で夫婦のみの世帯（以下「夫婦のみ世帯」という。）の男女
- ・ 特に属性を限定しない世帯（以下「一般世帯」という。）の65歳以上の男女  
（注）一般世帯の中には、一人暮らしや夫婦のみの世帯も含まれている。

#### 2 調査事項

- （1）調査客体の基本属性に関する事項
- （2）心配ごと・楽しみに関する事項
- （3）食事に関する事項
- （4）外出に関する事項
- （5）人とのつきあいに関する事項
- （6）経済に関する事項
- （7）健康・福祉に関する事項
- （8）住宅に関する事項

#### 3 調査実施期間 平成18年1月6日（金） ～ 平成18年1月30日（月）

#### 4 標本数及び有効回答数

（1）標本数 4,500人

一人暮らし世帯	1,500人
夫婦のみ世帯	1,500人
一般世帯	1,500人

（2）有効回収数 2,756人(61.2%)

一人暮らし世帯	792人(52.8%)
夫婦のみ世帯	873人(58.2%)
一般世帯	1,091人(72.7%)

#### 5 前回調査

前回調査は平成14年12月に「一人暮らし高齢者に関する意識調査」として実施しており、対象者は「一人暮らし世帯の男女」のみであった。このため、今回調査との比較については、一人暮らし世帯についてのみ行っている。

## 第2 基本属性

### (1) 性別・年齢別構成 (F 1・2) [調査結果 P 3]

- ・ 性別の構成比は、世帯によって大きく異なる。一般世帯は男女比がほぼ半数ずつ、夫婦のみ世帯では男性が61.1%、女性が38.9%であるが、一人暮らし世帯では男性が23.9%で女性が76.1%と女性の割合が高くなっている。
- ・ 年齢別にみると、一人暮らし世帯で80歳以上の割合が25.6%と他の類型より高い。前回調査と比べ75～79歳、80歳以上の後期高齢者の割合がそれぞれ増加している。

	総数	性別		年齢別			
		男	女	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
一人暮らし世帯							
総数 (人)	792	189	603	170	219	200	203
構成比 (%)	100.0	23.9	76.1	21.5	27.7	25.3	25.6
夫婦のみ世帯							
総数 (人)	873	533	340	214	334	237	88
構成比 (%)	100.0	61.1	38.9	24.5	38.3	27.1	10.1
一般世帯							
総数 (人)	1,091	513	578	341	315	231	204
構成比 (%)	100.0	47.0	53.0	31.3	28.9	21.2	18.7

### (2) 一人暮らしになった年齢 (F 4 S Q 1) [調査結果 P 3]

- ・ 一人暮らし世帯が一人暮らしになった年齢は、60歳未満が34.7%、60～69歳が36.1%、70歳以上で28.4%となっている。

	総数	39歳以前	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	小計	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以降	小計	無回答
一人暮らし世帯													
総数 (人)	792	75	15	35	56	94	275	133	153	123	102	511	6
構成比 (%)	100.0	9.5	1.9	4.4	7.1	11.9	34.7	16.8	19.3	15.5	12.9	64.5	0.8

### (3) 親族の有無 (F 8) [調査結果 P 7]

- ・ 一人暮らし世帯で15分以内くらいの距離に居住している子のいる割合が前回調査より7.6ポイント減少し、15分以内くらいの距離に居住している親族がない割合が57.8%と過半数を超えた。

	総数	子	孫	兄弟姉妹	その他	いない	無回答
一人暮らし世帯							
総数 (人)	792	176	71	129	43	458	3
構成比 (%)	100.0	22.2	9.0	16.3	5.4	57.8	0.4
平成14年度							
総数 (人)	1,941	578	250	421	205	881	-
構成比 (%)	100.0	29.8	12.9	21.7	10.6	45.4	-

(4) 健康状態 (F10) [調査結果 P 7]

- 健康状態について、良いとする割合(「良い」+「まあ良い」の計)は、「一人暮らし世帯」(46.7%)が「夫婦のみ世帯」(50.9%)及び「一般世帯」(51.9%)よりやや低い。

	総数	良い (計)		普通	良くない (計)			無回答	
		良い	まあ良い		あまり良くない	良くない			
一人暮らし世帯									
総数 (人)	792	370	140	230	245	177	144	33	-
構成比 (%)	100.0	46.7	17.7	29.0	30.9	22.3	18.2	4.2	-
夫婦のみ世帯									
総数 (人)	873	444	178	266	251	176	142	34	2
構成比 (%)	100.0	50.9	20.4	30.5	28.8	20.2	16.3	3.9	0.2
一般世帯									
総数 (人)	1,091	566	206	360	290	235	189	46	-
構成比 (%)	100.0	51.9	18.9	33.0	26.6	21.5	17.3	4.2	-

(5) 介護の認定状況 (F11) [調査結果 P 8]

- 『要支援・要介護』の割合は夫婦のみ世帯(6.0%)、一般世帯(8.1%)に比べ、一人暮らし世帯(12.1%)で高い。

	総数	認定を申請していない	認定を申請中	自立と認定された	要支援・要介護 (計)	認定が要介護度はわからない				わからない	無回答	
						要支援	要介護1	要介護2	要介護3以上			
一人暮らし世帯												
総数 (人)	792	669	9	4	96	29	38	11	6	12	12	2
構成比 (%)	100.0	84.5	1.1	0.5	12.1	3.7	4.8	1.4	0.8	1.5	1.5	0.3
夫婦のみ世帯												
総数 (人)	873	805	6	3	52	14	16	8	5	9	3	4
構成比 (%)	100.0	92.2	0.7	0.3	6.0	1.6	1.8	0.9	0.6	1.0	0.3	0.5
一般世帯												
総数 (人)	1,091	988	5	1	88	26	21	13	13	15	6	3
構成比 (%)	100.0	90.6	0.5	0.1	8.1	2.4	1.9	1.2	1.2	1.4	0.5	0.3
平成14年度												
総数 (人)	1,941	1,586	27	22	244	55	74	25	25	65	62	-
構成比 (%)	100.0	81.7	1.4	1.1	12.6	2.8	3.8	1.3	1.3	3.3	3.2	-

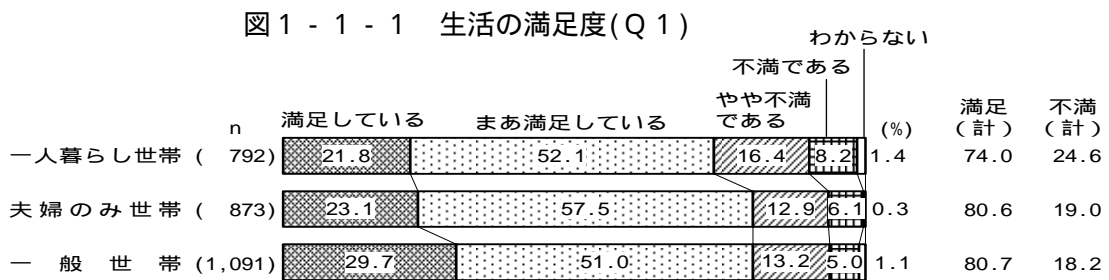
### 第3 結果の概要

#### 1 心配ごと・楽しみ

現在の生活の満足度は高いが、病気や介護への不安も強い。

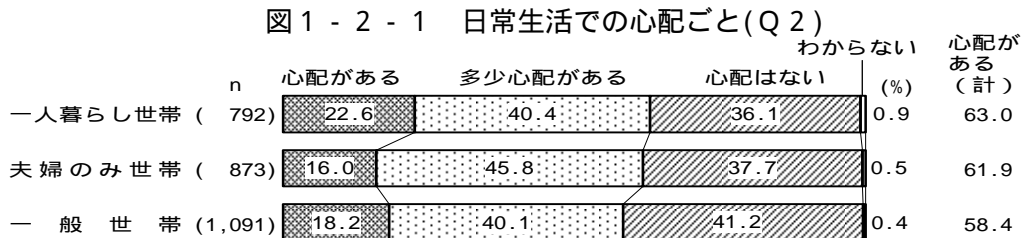
##### (1) 生活の満足度(Q1) [調査結果P7 図1-1-1]

- 満足とする割合(「満足」+「まあ満足」の計)は総じて高いが、「一人暮らし世帯(74.0%)」は、「夫婦のみ世帯(80.6%)」及び「一般世帯(80.7%)」よりやや低い。



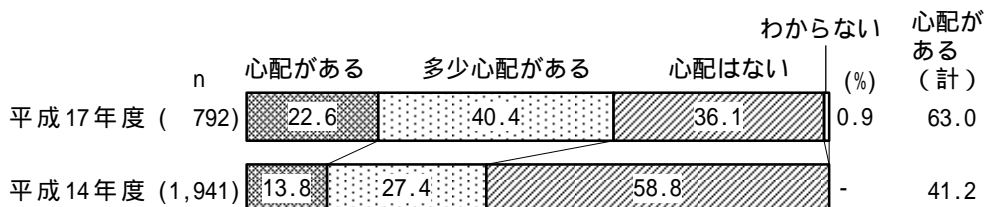
##### (2) 日常生活での心配ごと(Q2) [調査結果P14 図1-2-1]

- 心配とする割合(「心配がある」+「多少心配がある」の計)は、「一人暮らし世帯(63.0%)」は「夫婦のみ世帯(61.9%)」及び「一般世帯(58.4%)」よりやや高い。



- 前回調査と比較すると、一人暮らし世帯で『心配』とする割合は(「心配がある」8.8ポイント、「多少心配がある」13.0ポイント)増加している。一方、「心配がない」は22.7ポイント減少している。

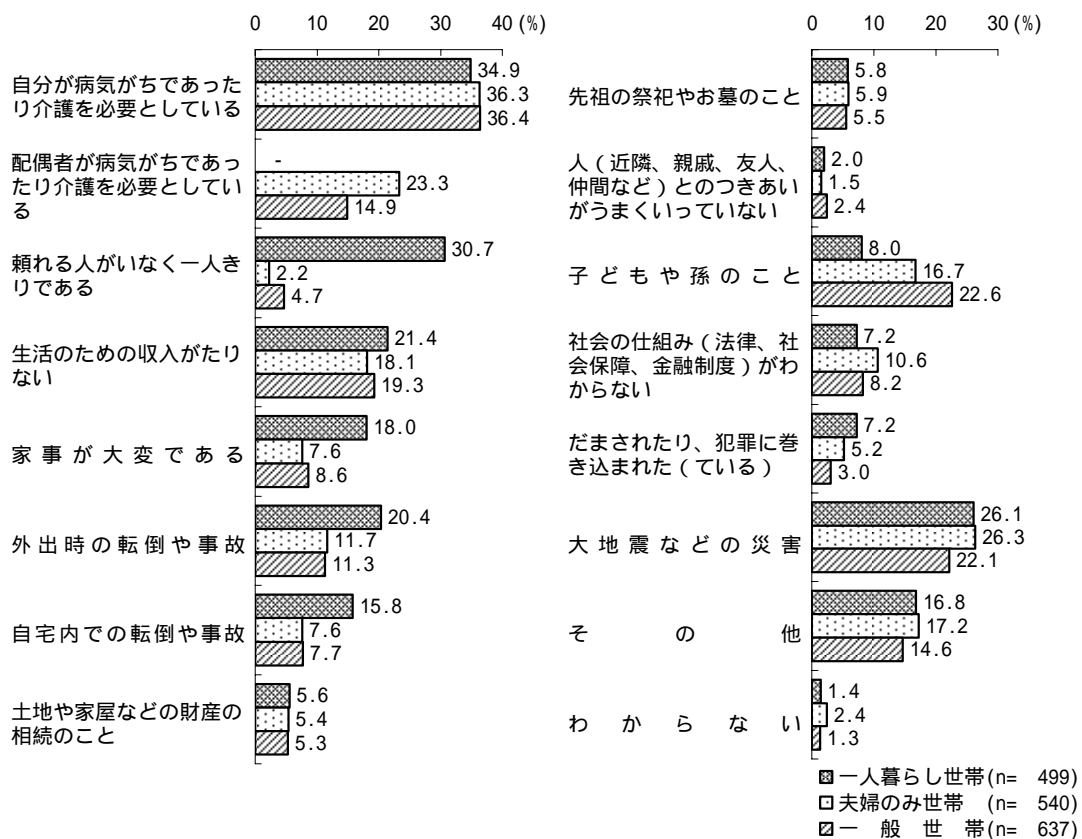
図1-2-2 日常生活での心配ごと(Q2)(前回比較)



(3) 日常生活での心配ごとの内容(Q2SQ) [調査結果P18 図1-3-1]

- ・ 心配ごとの内容は、「自分が病気又は介護を必要」が、いずれの世帯でも最も高い(一人暮らし世帯(34.9%)、夫婦のみ世帯(36.3%)、一般世帯(36.4%) )。
- ・ 次いで、一人暮らし世帯では「頼れる人がいなく一人きりである」が30.7%、夫婦のみ世帯では「配偶者が病気がちであったり介護を必要としている」が23.3%、一般世帯では「子どもや孫のこと」が22.6%であげられている。
- ・ また、いずれの世帯も「大地震などの災害」(一人暮らし世帯26.1%、夫婦のみ世帯26.3%、一般世帯22.1%)は2割以上が、「生活のための収入が足りない」(一人暮らし世帯21.4%、夫婦のみ世帯18.1%、一般世帯19.3%)は2割前後があてており、共通の心配ごととなっている。
- ・ このほか、「外出時の転倒や事故」(一人暮らし世帯20.4%、夫婦のみ世帯11.7%、一般世帯11.3%)、「家事が大変である」(一人暮らし世帯18.0%、夫婦のみ世帯7.6%、一般世帯8.6%)、「自宅内での転倒や事故」(一人暮らし世帯15.8%、夫婦のみ世帯7.6%、一般世帯7.7%)は夫婦のみ世帯や一般世帯に比べ、一人暮らし世帯で割合が高くなっている。

図1-3-1 日常生活での心配ごとの内容(Q2SQ)(複数回答)



(4) 将来への不安(Q3) [調査結果P25 図1-4-1]

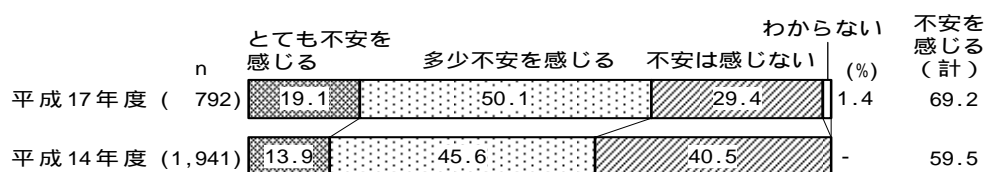
- ・ 不安を感じる割合(「とても不安を感じる」+「多少不安を感じる」の計)は、一般世帯(65.2%)に比べて、夫婦のみ世帯(73.0%)、一人暮らし世帯(69.2%)でやや高い。「とても不安を感じる」の割合は、夫婦のみ世帯(14.1%)、一般世帯(12.6%)に比べ、一人暮らし世帯(19.1%)でやや高い。

図1 - 4 - 1 将来への不安(Q3)



- ・ 前回調査(59.5%)と比較すると、一人暮らし世帯で『不安を感じる』は9.7ポイント増加(69.2%)している。

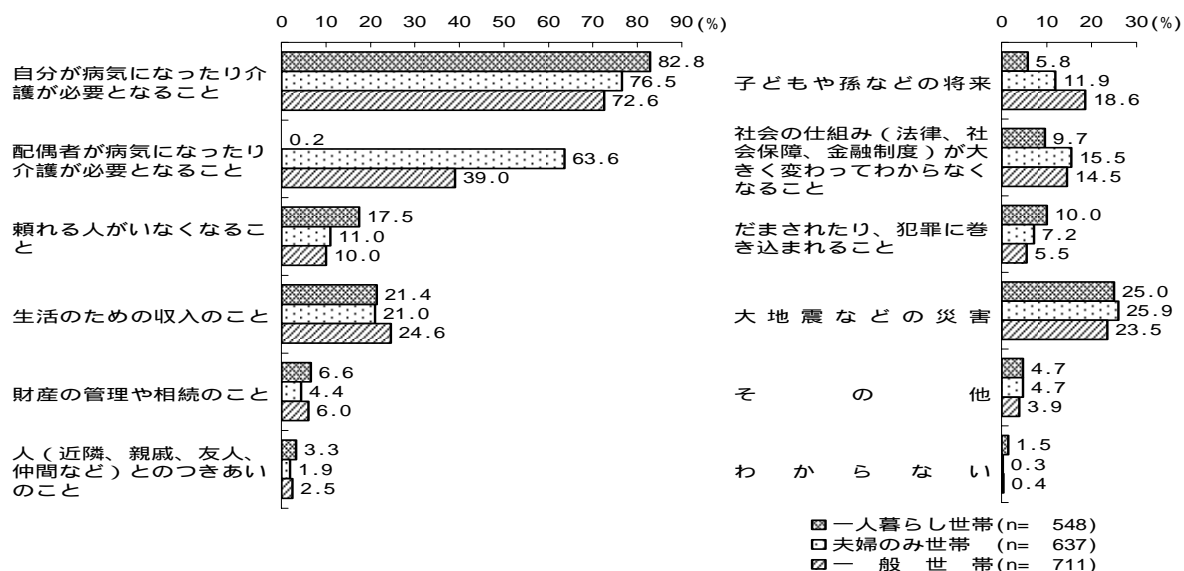
図1 - 4 - 2 将来への不安(Q3) (前回比較)



(5) 将来の不安の内容(Q3SQ) [調査結果P29 図1-5-1]

- ・ いずれの世帯も「自分が病気になったり介護が必要となること」が最も高く、一人暮らし世帯で82.8%、夫婦のみ世帯で76.5%、一般世帯で72.6%となっている。
- ・ 次に、「配偶者が病気になったり介護が必要となること」が夫婦のみ世帯で63.6%、一般世帯で39.0%となっている。
- ・ 一人暮らし世帯では次いで「大地震などの災害」(25.0%)があげられており、夫婦のみ世帯(25.9%)、一般世帯(23.5%)でも25%前後の人があげている。
- ・ また、「生活のための収入のこと」は一人暮らし世帯で21.4%、夫婦のみ世帯で21.0%、一般世帯で24.6%といずれの世帯でも20%以上があげている。
- ・ 「頼れる人がいなくなること」は夫婦のみ世帯(11.0%)、一般世帯(10.0%)に比べ、一人暮らし世帯(17.5%)で割合が高くなっている。

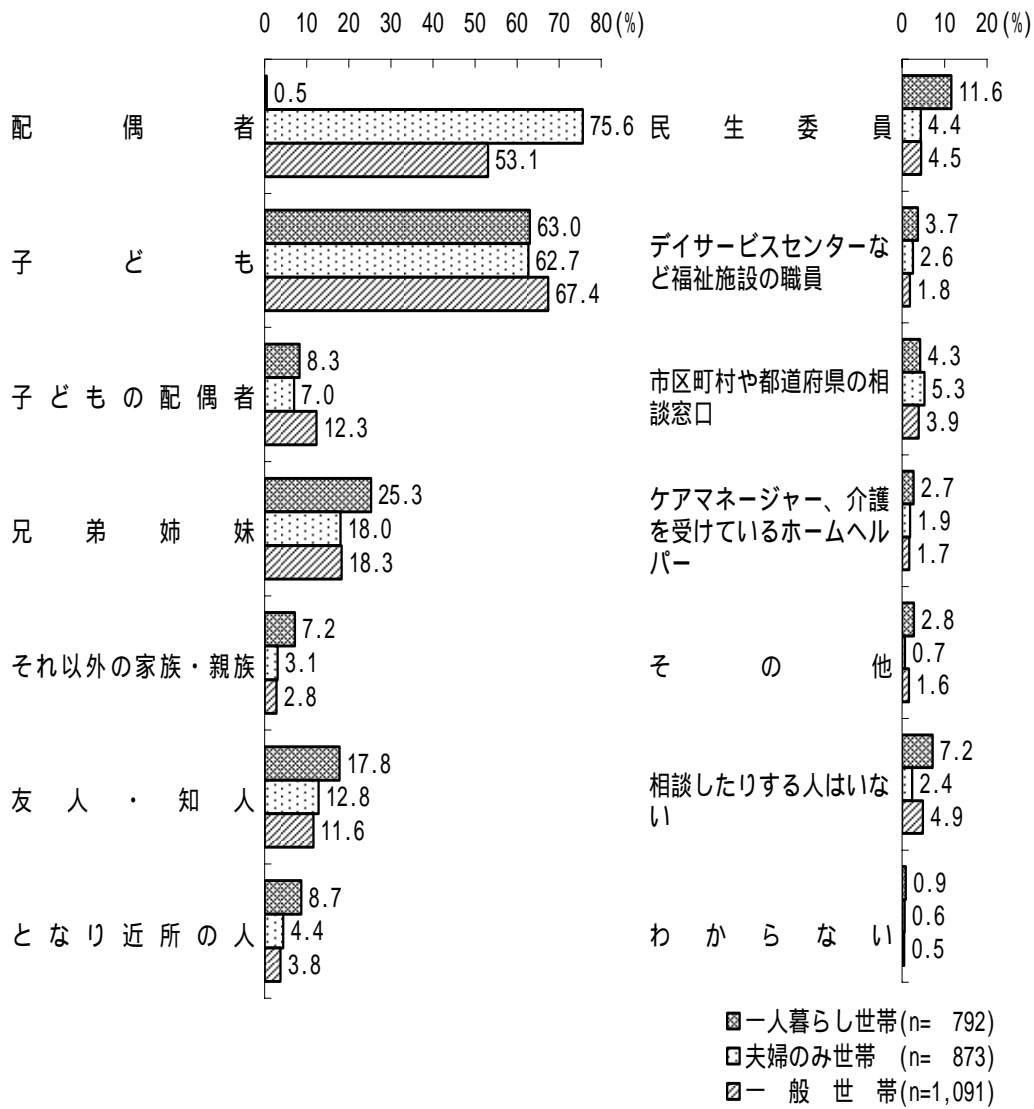
図1 - 5 - 1 将来の不安な点(Q3SQ)(複数回答)



(6) 心配ごとの相談相手(Q4) [調査結果P35 図1-6-1]

- 「心配ごとや悩みごとの話し相手や相談相手」についてみると、「相談したりする人はいない」割合は、夫婦のみ世帯(2.4%)、一般世帯(4.9%)に比べて一人暮らし世帯(7.2%)でやや高く、特に、一人暮らし世帯の男性は(16.9%)と高くなっている。

図1-6-1 心配ごとの相談相手(Q4)(複数回答)



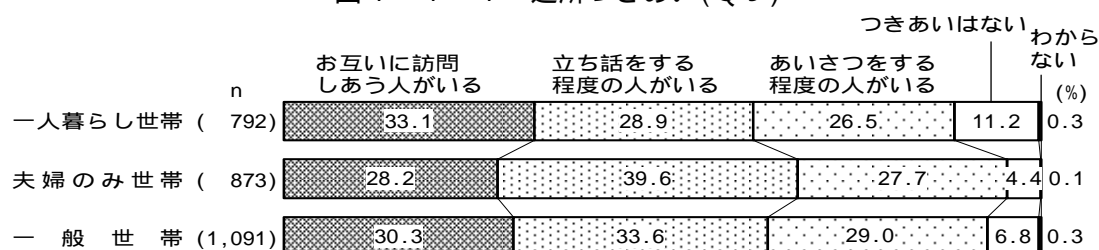
## 2 人とのつきあい

グループ活動では、町内会・自治会や老人クラブが主となっているが、所属していない者も少なくない。一人暮らし世帯の男性は、近所づきあいや友人との関わりが相対的に希薄である。

### (1) 近所づきあい(Q9)[調査結果P59 図4-1-1]

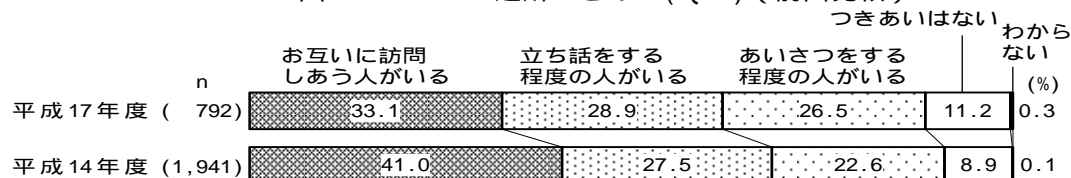
- 「近所の人とどの程度つきあいをしているか」についてみると、「お互いに訪問しあう人がいる」割合は、一人暮らし世帯(33.1%)、夫婦のみ世帯(28.2%)、一般世帯(30.3%)であるが、一人暮らし世帯の男性は14.8%と低くなっている。一方で「つきあいはない」割合は、夫婦のみ世帯(4.4%)、一般世帯(6.8%)に比べ一人暮らし世帯(11.2%)で高くなっており、一人暮らし世帯の男性(24.3%)では特に高くなっている。

図4-1-1 近所づきあい(Q9)



- 前回調査と比較すると、一人暮らし世帯で「お互いに訪問しあう人がいる」は7.9ポイント減少し、「つきあいはない」が2.3ポイント増加している。

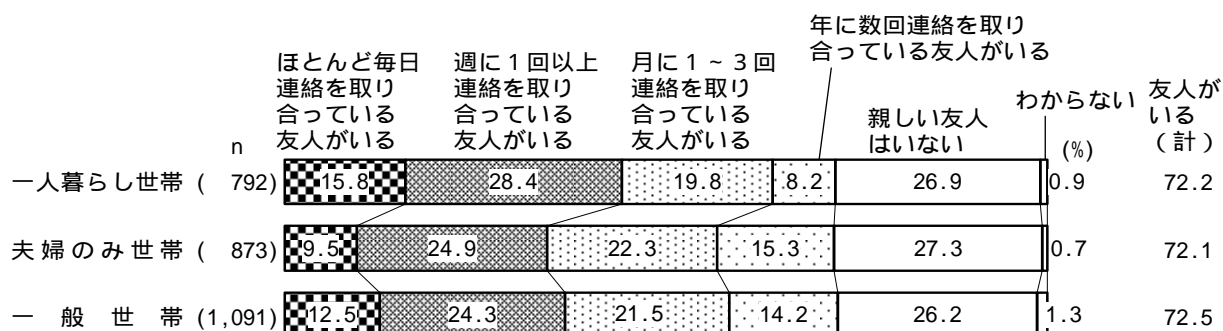
図4-1-2 近所づきあい(Q9)(前回比較)



### (2) 親しい友人の有無(Q11)[調査結果P67 図4-3-1]

- 「家族や親族以外の人で相談しあったり、世話をしあう親しい友人がいるか」についてみると、「親しい友人はいない」割合は、一人暮らし世帯(26.9%)、夫婦のみ世帯(27.3%)、一般世帯(26.2%)でほとんど差がないが、一人暮らし世帯の男性(41.3%)については、特に高くなっている。

図4-3-1 親しい友人の有無(Q11)

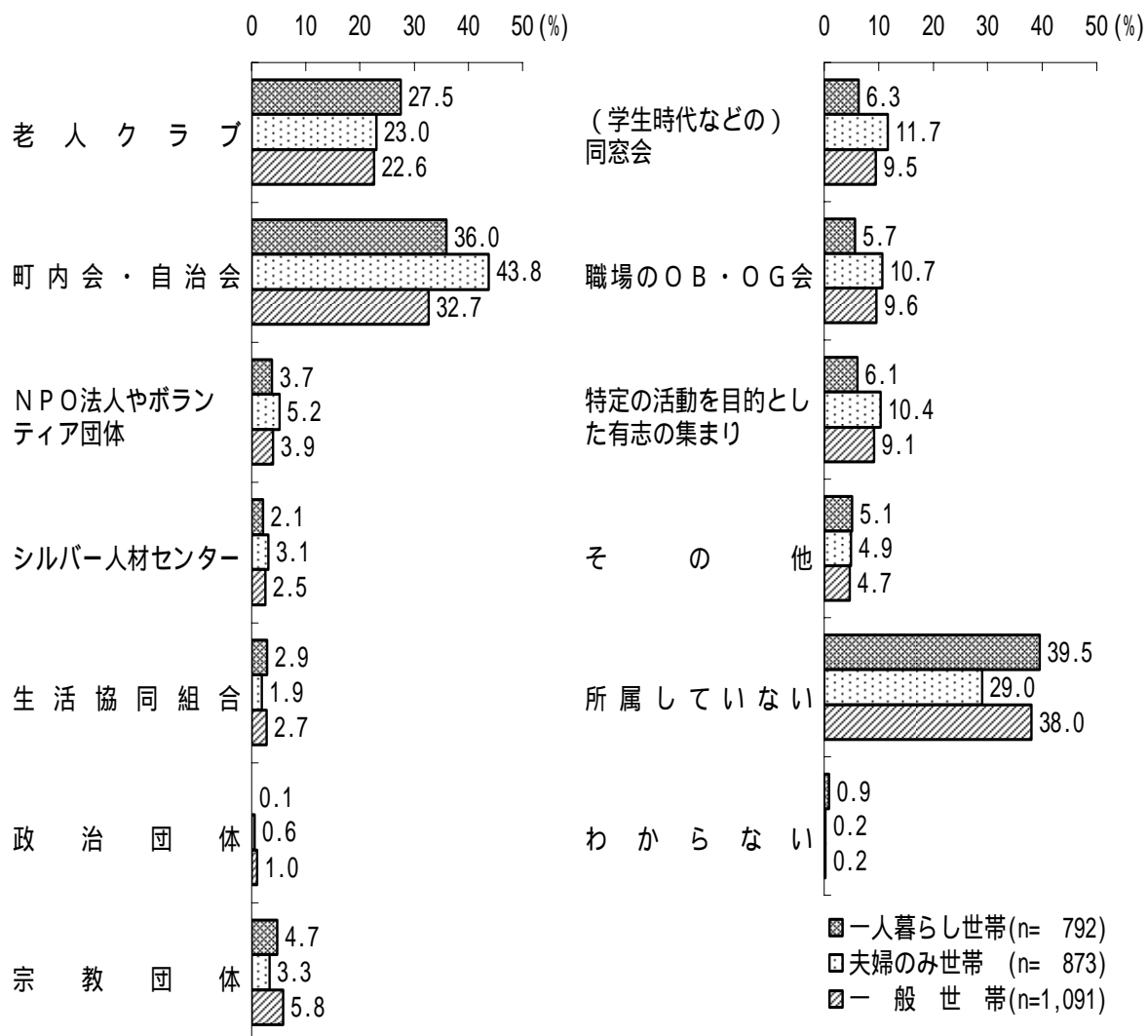




(3) グループ活動への参加状況 (Q12) [調査結果P71 図4-4-1]

- ・ 「現在、どのようなグループに所属しているか」についてみると、一人暮らし世帯では「所属していない」が39.5%となっている。具体的な所属グループでは「町内会・自治会」36.0%、「老人クラブ」27.5%が主になっている。
- ・ 夫婦のみ世帯では「所属していない」が29.0%となっている。具体的な所属グループでは「町内会・自治会」43.8%、「老人クラブ」23.0%が主になっている。
- ・ 一般世帯では「所属していない」が38.0%となっている。具体的な所属グループでは「町内会・自治会」32.7%、「老人クラブ」22.6%が主になっている。
- ・ 「所属していない」は「夫婦のみ世帯(29.0%)」に比べ、「一人暮らし世帯(39.5%)」、「一般世帯(38.0%)」の割合が高くなっている。特に、一人暮らし世帯の男性(47.6%)で高くなっている。

図4-4-1 グループ活動への参加状況 (Q12)(複数回答)



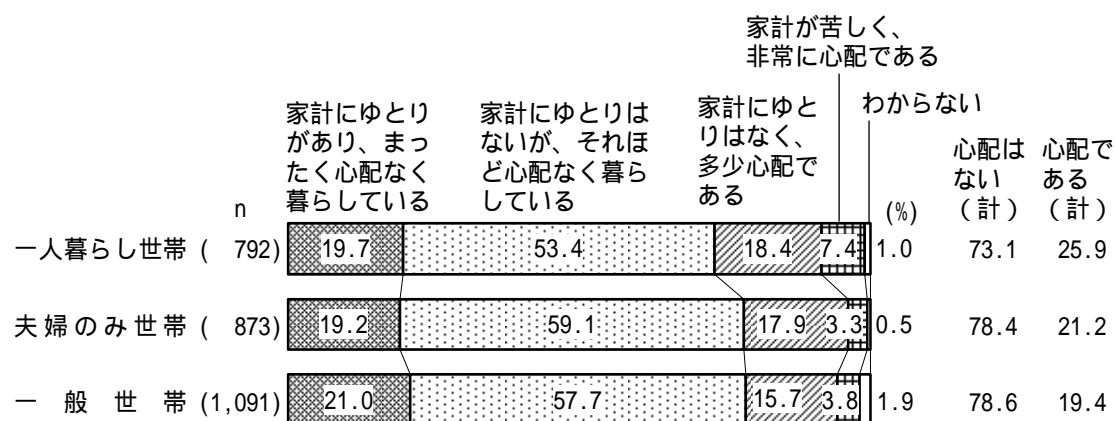
### 3 経済に関すること

7割以上が家計をそれほど心配せずに暮らしている。主な収入源の9割以上が公的年金。

(1) 経済的な暮らし向き (Q14) [調査結果P82 図5-1-1]

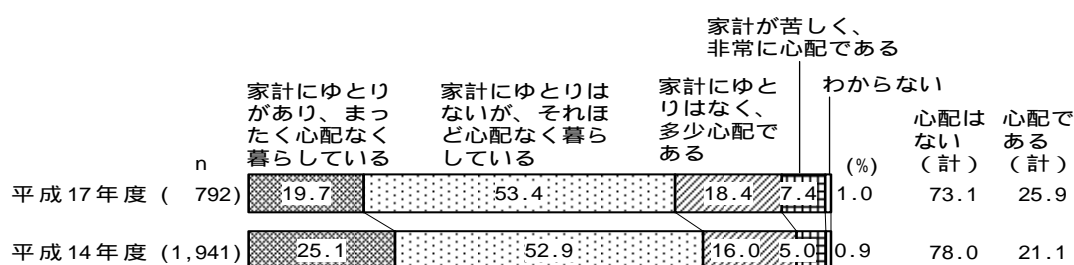
- ・ 心配である(「家計が苦しく非常に心配である」+「家計にゆとりはなく多少心配である」の計)は、「夫婦のみ世帯(21.2%)」、「一般世帯(19.4%)」に比べ「一人暮らし世帯(25.9%)」で高くなっている。

図5-1-1 経済的な暮らし向き(Q14)



- ・ 前回調査と比べると、一人暮らし世帯で「心配である」割合は4.8ポイント増加している。

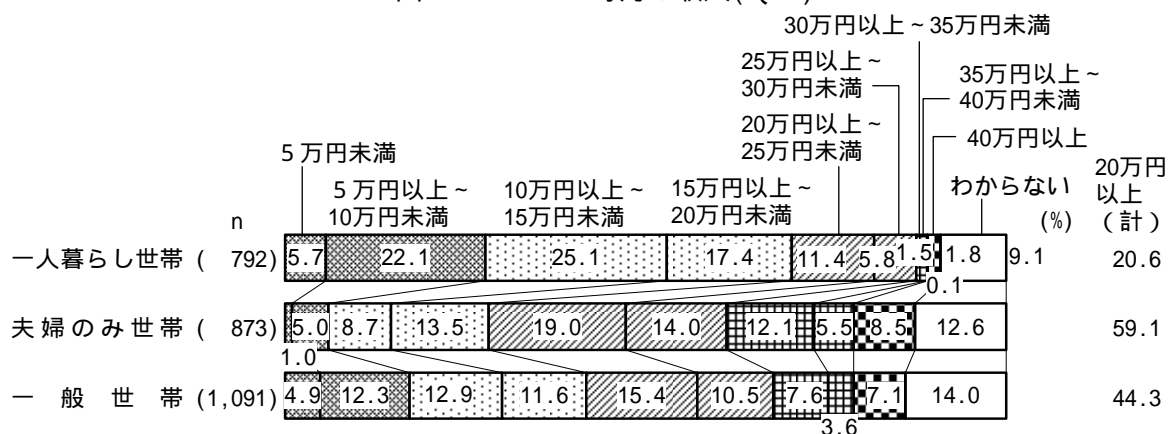
図5-1-2 経済的な暮らし向き(Q14) (前回比較)



(2) 毎月の収入 (Q15) [調査結果P86 図5-2-1]

- ・ 税込みの平均収入額をみると、15万円未満の割合は、夫婦のみ世帯(14.7%)、一般世帯(30.1%)に比べて、一人暮らし世帯(52.9%)で高くなっている。また、一人暮らし世帯の女性(55.8%)で高くなっている。

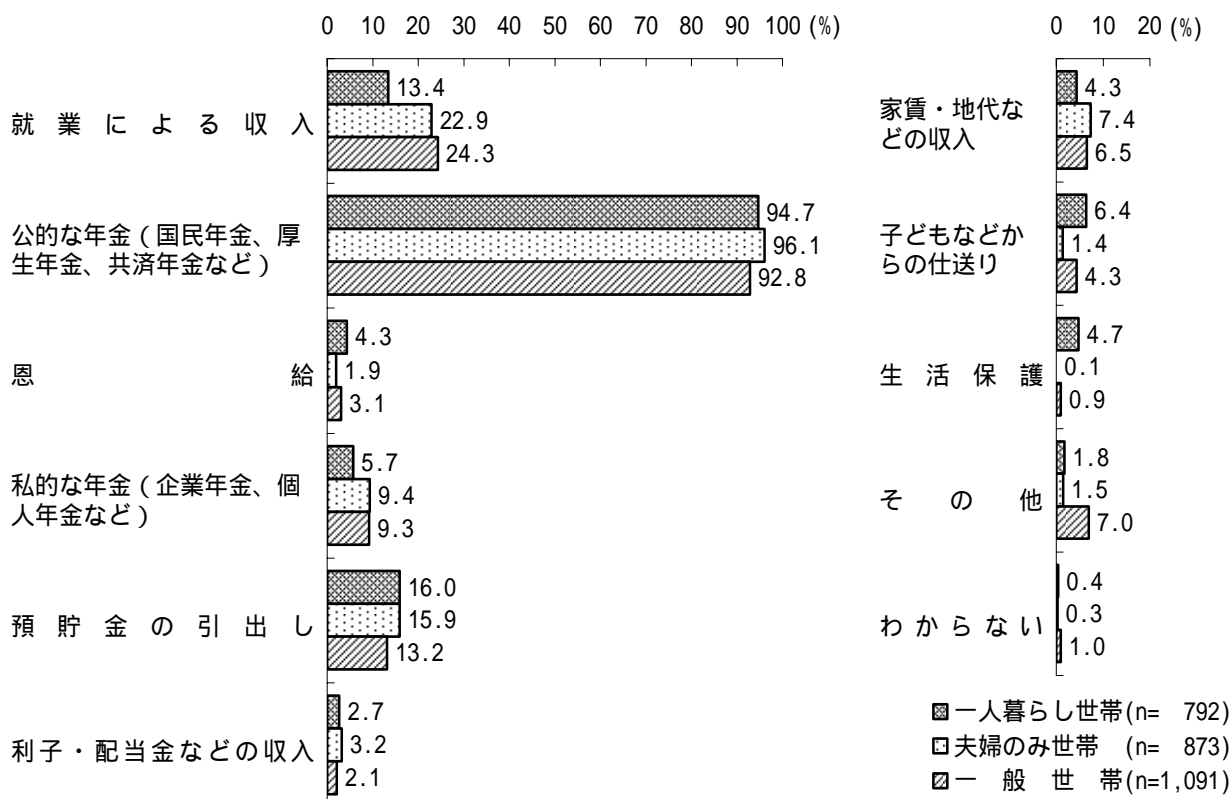
図5 - 2 - 1 毎月の収入(Q15)



(3) 主な収入源 (Q16) [調査結果P89 図5 - 3 - 1]

- ・ 「現在の生活費をまかなっている主な収入源」についてみると、「公的な年金(国民年金、厚生年金、共済年金など)」が一人暮らし世帯で94.7%、夫婦のみ世帯で96.1%、一般世帯で92.8%といずれの世帯でも90%を超えている。
- ・ 生活保護の割合が夫婦のみ世帯(0.1%)、一般世帯(0.9%)に比べて一人暮らし世帯(4.7%)で高くなっている。

図5 - 3 - 1 主な収入源(Q16)(3つまで順に回答)



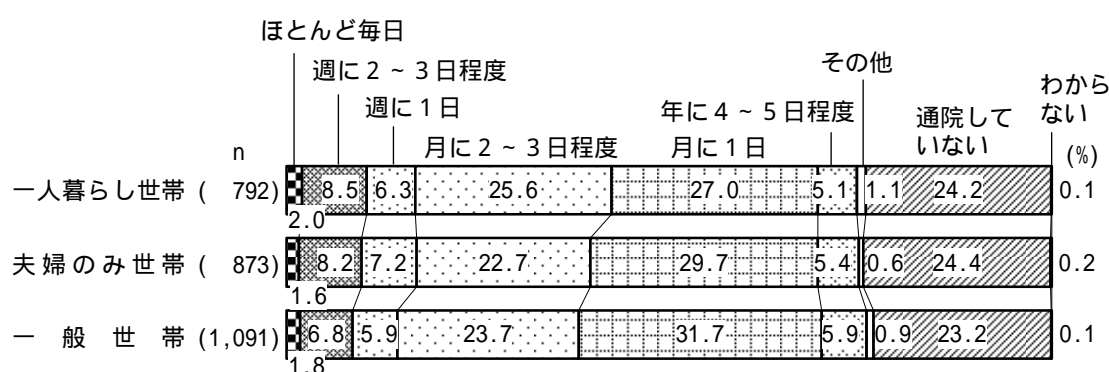
#### 4 健康・福祉に関すること

通院の程度は世帯によって大きな差はみられない。介護が必要になった時の場所については、一人暮らし世帯で相対的に「施設」を希望する割合が高くなっている。

(1) 通院の程度(Q20) [調査結果P103 図6-1-1]

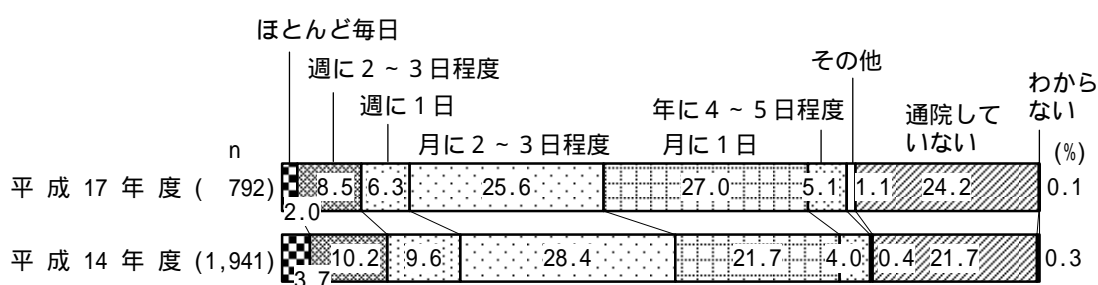
- ・ 「現在、病気の治療のために病院や診療所にどの程度通院しているか」についてみると、通院している割合は、一人暮らし世帯(74.5%)、夫婦のみ世帯(74.8%)、一般世帯(75.8%)で大きな差はみられない。
- ・ 通院の頻度についても、大きな差はみられない。

図6-1-1 通院の程度(Q20)



- ・ 前回調査と比較すると、一人暮らし世帯で通院している割合は3.1ポイント減少し、「通院していない」は2.5ポイント増加している。「月に2~3日程度」より頻度の高い項目で割合が減少している。

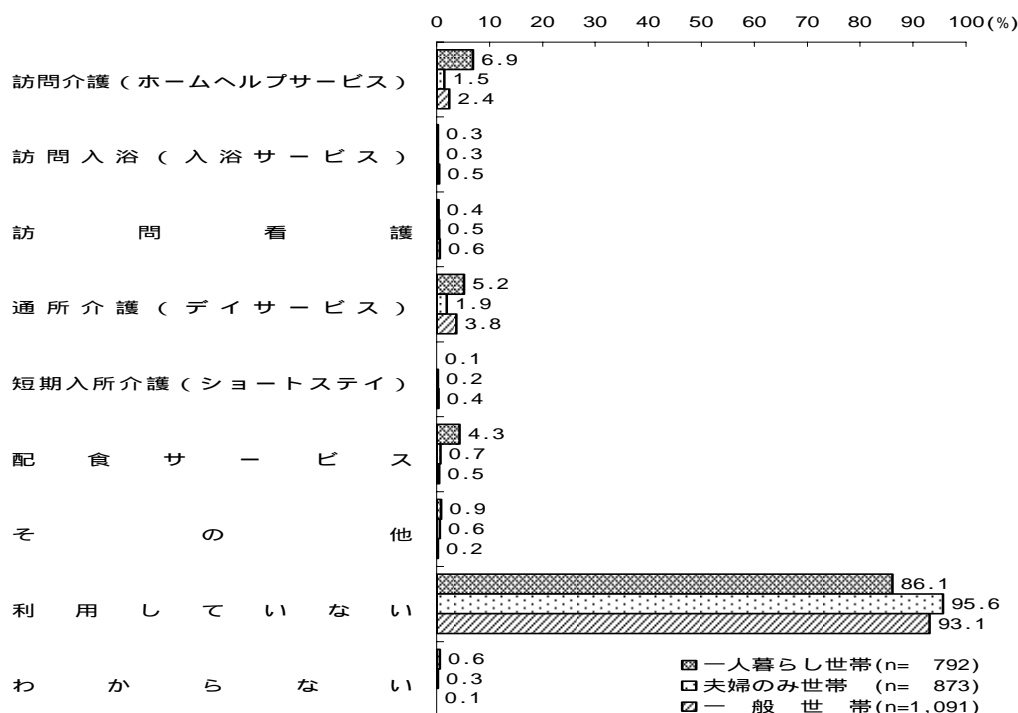
図6-1-2 通院の程度(Q20) (前回比較)



(2) 通所・在宅福祉サービスの利用状況(Q21) [調査結果P106 図6-2-1]

- ・ 「ふだんどのような通所・在宅福祉サービスを利用しているか」についてみると「利用していない」は一人暮らし世帯で86.1%、夫婦のみ世帯で95.6%、一般世帯で93.1%となっており、一人暮らし世帯で何らかのサービスを利用している割合が高くなっている。

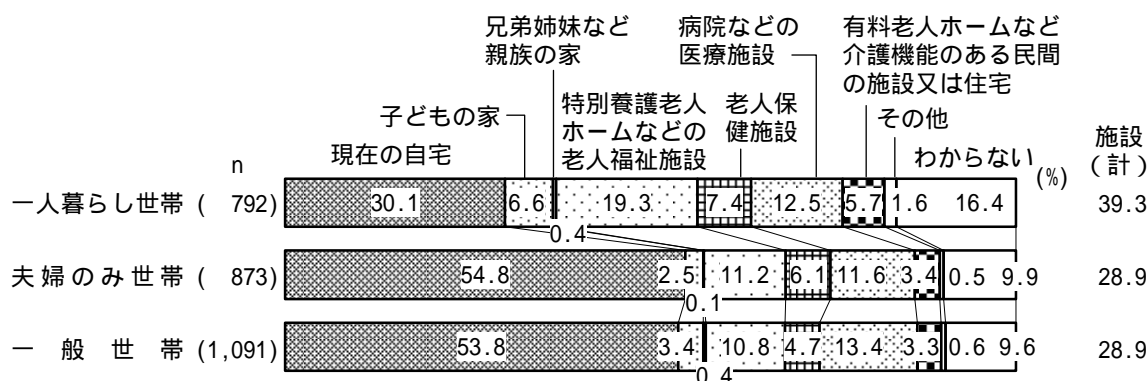
図6-2-1 通所・在宅福祉サービスの利用状況(Q21)(複数回答)



(3) 介護の場所(Q22) [調査結果P111 図6-4-1]

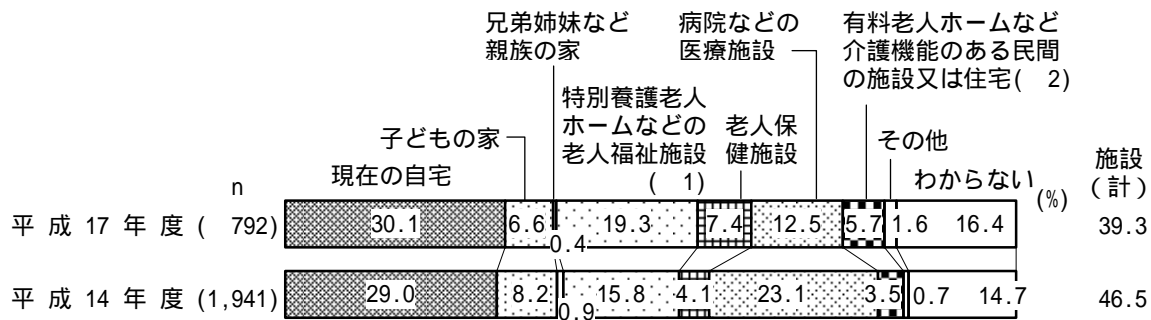
- 「仮に身体が虚弱になって、日常生活を送る上で介護を必要とするようになった場合、どこで介護を受けたいか」についてみると、一人暮らし世帯では「現在の自宅」が30.1%と最も割合が高いものの、夫婦のみ世帯(54.8%)、一般世帯(53.8%)と比べて低くなっている。一方で、一人暮らし世帯では「特別養護老人ホームなどの老人福祉施設」、「老人保健施設」、「病院などの医療施設」、「有料老人ホームなど介護機能のある民間の施設又は住宅」を合わせた『施設』は39.3%となっており、夫婦のみ世帯(28.9%)、一般世帯(28.9%)と比べて高くなっている。なかんずく、「特別養護老人ホームなどの老人福祉施設」の割合が19.3%と夫婦のみ世帯(11.2%)、一般世帯(10.8%)に比べて高くなっている。

図6-4-1 介護の場所(Q22)



- 一人暮らし世帯について前回調査と比較すると、「病院などの医療施設」が前回より10.6ポイント減少し、他の施設は増加している。

図6-4-2 介護の場所(Q22)(前回比較)

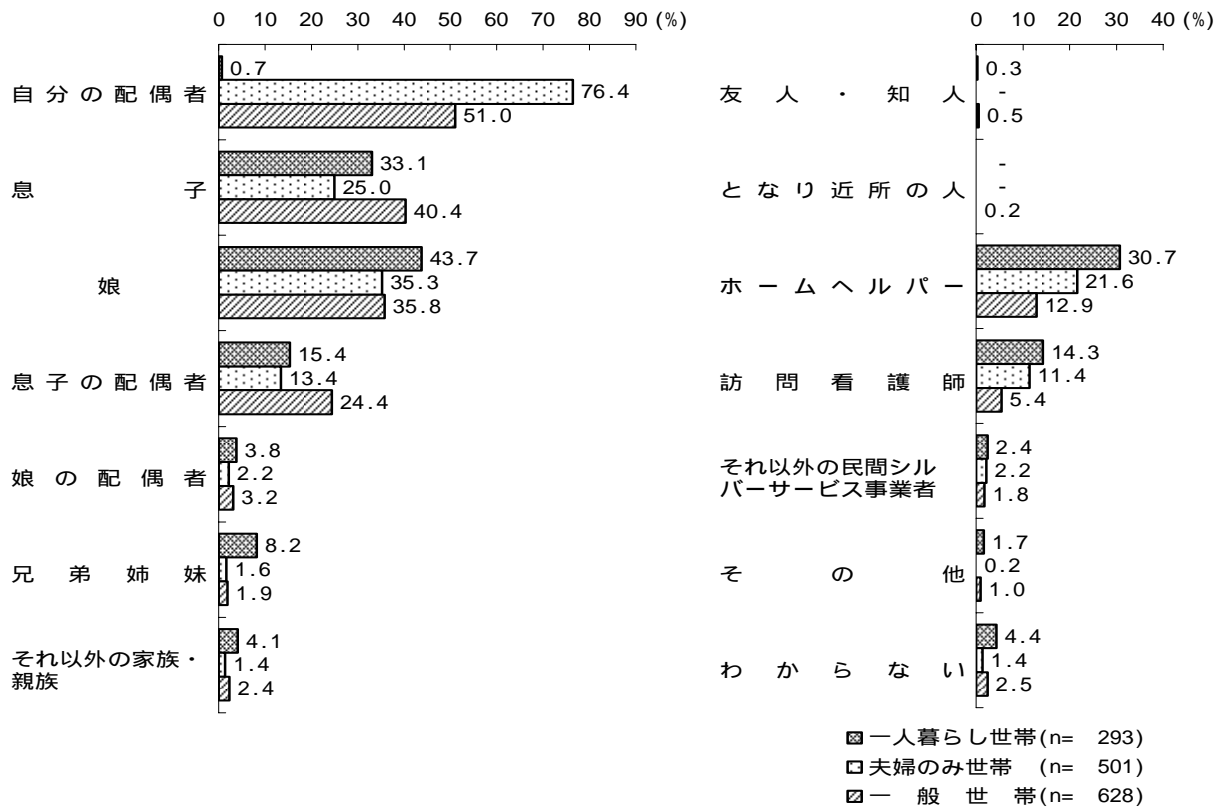


(注) (1)平成14年度は「老人ホームなどの福祉施設」  
 (2)平成14年度は「介護機能のある民間の有料老人ホーム」

(4) 介護を頼む人(Q22SQ) [調査結果P115 図6-5-1]

- ・ 自宅や子ども・親族の家で介護を受けたい人の「介護を頼む人」についてみると、一人暮らし世帯では「娘」が43.7%と最も割合が高く、次いで「息子」が33.1%となっている。
- ・ 一人暮らし世帯では、ホームヘルパー(30.7%)、訪問看護師(14.3%)が夫婦のみ世帯(21.6%, 11.4%)、一般世帯(12.9%, 5.4%)に比べて高くなっている。

図6-5-1 介護を頼む人(Q22SQ)(3つまでの複数回答)



(5) 健康の維持・増進(Q23) [調査結果P 120 図6-6-1]

- ・ 「健康の維持、増進のために心がけていること」についてみると、いずれの世帯でも「休息や睡眠を十分とる」(一人暮らし世帯(55.9%)、夫婦のみ世帯(59.2%)、一般世帯(59.9%))「規則正しい生活を送る」(一人暮らし世帯(49.2%)、夫婦のみ世帯(53.6%)、一般世帯(50.4%))「栄養のバランスのとれた食事をする」(一人暮らし世帯(52.1%)、夫婦のみ世帯(56.5%)、一般世帯(53.3%))の割合が高くなっている。
- ・ 「特に心がけていることはない」は一人暮らし世帯(9.2%)、夫婦のみ世帯(5.8%)、一般世帯(9.0%)となっているが、一人暮らし世帯の男性(14.8%)が高くなっている。

図6-6-1 健康の維持・増進(Q23)(複数回答)

